

CONTENTS

自作自演221 ..... 日吉康行・光崎敏正 ..... 2

JIAに入会して ..... 中村慎吾・花井秀哲・平野章博・藤岡陽子 ..... 3

第2回 吉田五十八の住宅  
内玄関と勝手口 ..... 大井隆弘 ..... 4

2017年度リフレッシュセミナー参加者レポート  
建築の拡張と深化 ..... 西村和哉・中渡瀬拓司・黒野有一郎 ..... 6

JIA愛知発 設計コンペの意義と普及を考えるシンポジウム  
地方公共団体における設計者選定のありかたを考える～岐南町庁舎の場合～  
..... 野々川光昭 ..... 7

JIA愛知発 建築教室「みんなの秘密基地をつくろう」@猪高小  
予定超和の子どもたち ..... 関口啓介 ..... 8

つくる喜び伝える授業に手ごたえ ..... 笹野直之 ..... 8

JIA三重発 「アーキテクトみえ」30周年記念  
30周年の節目にデザインを一新 ..... 阪 竹男 ..... 9

建築家資格制度についてのアンケート調査結果報告 ..... 野々川光昭 ..... 10

建築家認定評議会報告 ..... 藤巻志伸 ..... 10

理事会レポート ..... 石田 壽 ..... 12

東海支部役員会報告 ..... 山田浩史 ..... 13

保存情報 第198回 友田家住宅 ..... 富田正行 ..... 14  
まち並みとしての保存を考える 大野町 ..... 浅井裕雄 ..... 14

Bulletin Board ..... 15

地域会だより ..... 15

法人協力会通信③ 協同組合ケーエスジ ..... 大野一彦 ..... 16

編集後記 ..... 中澤賢一・西郷悦代 ..... 16

設計図は語る ● 2

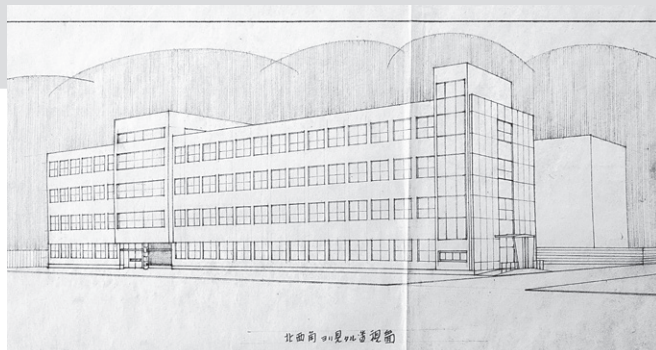
済生会愛知県病院本館 手術室

黒川建築事務所（1946 [昭和21] 年設立）

黒川建築事務所は1946（昭和21）年2月に開設された。当時は資材も乏しく、設計事務所に設計を依頼する人などいるのかと思いつつ資料を探すと、随分多くのジョブが保存されていた。

これは、1953（昭和28）年9月設計の済生会愛知県病院本館第1期建築其他工事の手術室の設計図である。敷地には今でも新しい済生会リハビリテーション病院（西区栄生一丁目）がある。当時は、RC4階で1期工事として改築計画が始まったが、手術室が木造別棟で設計されている。たぶん、改築に伴う暫定的な施設かと思われる。しかし、暫定とはいえ、現在の手術室の基準と比べると当時はおおらかだった。

この1枚の図面に多くの情報が盛り込まれ、右下に設けるべき枠の位置すら度外視した手描きの図面で、たばこを吸いながら描いたせいか、跡が残っている。CADにはない設計者の想いが伝わってくる。パースはRCで改築する立面図と一緒に図面に描かれていた。



北西角から見たパース（全体計画）

所在地…名古屋市西区  
竣工…1954（昭和29）年  
構造・規模…木造平家建  
建築面積…46.61㎡  
基本設計…黒川建築事務所  
実施設計…黒川建築事務所

高嶋繁男（JIA愛知） | 黒川建築事務所





## 日吉 康行 (JIA 静岡)

日建築設計事務所 (御殿場市川島田421-1 TEL 0550-82-1389 FAX 0550-83-6341)

### 人がいて、暮らしてこそそのまち

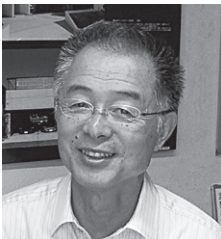
40年ほど前、子育て年代に住んでいた周辺は、田畑ばかりの中に数軒の家があるだけで、田植えの時はうるさいほどの蛙の合唱、秋の実りのころになるとイナゴが飛びかい彼岸花が田畑の土手に咲き誇る、田園風景が豊かなところでした。やがて新しい家が次々と建ち並びはじめ、当然ながら田園風景は失われ、そのかわりに世帯数が増え、子どもたちの笑い声があちこちで聞かれる、いかにも生活感の溢れるまちの雰囲気になっていきました。

しかし、20年も経過すると子どもたちは巣立ち、いつの間にか賑わいはなくなり、あの活気のあった家は高齢世帯になったり、空き家になってしまったりで、物寂しさをおぼえています。

そのような中、都合で現在の家に住まうことになり、はや5年が経ちました。この周辺は幼稚園、保育園、小中学校や看護学校、企業の寮などがあり、朝夕に小中学生が笑ったり、つき合ったりしながら通学する様や、幼稚園の子供の手を引き通園する親子連れや、会社勤めの人、看護学生がグループになって楽しそうに話しながら歩く様など、明るく和やかで生き生きとした生活風景を見ることができます。まちって当たり前ながら子どもたちから若者、高齢者の人々まですべての世代の人々がいてそして暮らしてこそなのです。

最近の次々と報道される災害を見ていて、人為的、あるいは自然の猛威により人々が住まなく、あるいは住めなくなってしまっているまちが増えてきていることには何ともやるせない思いがします。復興で生まれ変わることができるまちはまだよいのですが、永久に復興できないまちはどうなるのでしょうか。

せめて人為的な過ちは犯さないようにしたいものです。



## 光崎 敏正 (JIA 愛知)

光崎敏正建築創作所  
(名古屋市千種区四ッ谷通り1-7 ビレッチよつや2F TEL 052-781-5523 FAX 052-781-5524)

### 私の英会話歴

この歳になったので恥も外聞もなく言えるのですが、この20年来私は英会話学校に週一回通っています。こんなことを書くどんなに喋れるかと勘違いされてしまいますが、私の実力はまったくお粗末極まりないものです。とりわけ近頃は、朝一つ憶えたら夕に二つ忘れる有様なので、進歩なぞ望むべくもありません。それ以前にも個人レッスンを受けて短期留学に行ったので、妻からは「お金をどぶに捨てているようなものよ!」と鼻であしらわれています。思えば、生来音感に乏しく、学生の頃には英語の点数はクラス最下位だったろう私が70歳を越えていまだ学校に通っているなんて、われながら可笑しくもあり人生の妙を感じます。

妻と2人で海外旅行に出掛けるごとに、自分の不甲斐なさにショックを受けながらも、性懲りもなく続けるこの私のある種のマゾヒスティックな性癖はどこから来たのでしょうか。

思い当たる節があります。私はこれまでの住宅設計を通して、さまざまなクライアントからの無理難題の中で躓き苦しみながら、その中に小さな自己満足を見出すという業ともいべきものを身につけたような気がします。

設計者はすべからくマゾなのではないでしょうか?



昨年のブダベストでの一枚



### 中村慎吾 (JIA 愛知)

石本建築事務所 (名古屋市中区栄四丁目3-26昭和ビル TEL 052-263-1821 FAX 052-264-1990)

父が土木の設計をしており、子どものころは家族旅行の際に寄り道しては、ダムや橋といった大きな構造物を見に連れて行かれました。そこで、大きな人工物が人の手により自然に対峙している様子を、なんとなく眺めていたのでしょう。

建築の設計に興味を持ったのも、そして不特定多数が利用する比較的大きな規模の作品に携わることの多い、いわゆる組織設計事務所を選択したのも、そのような小さいころの経験が少なからず影響していると思います。

このたびJIAに推薦していただくことになり、会員となりました。入ったからには、立派な建築家を目指し、その職能を意識した行動に動しようとする、今日この頃です。

立派な建築家…。それが何なのかも同時に悩み考えていきたいと思いつつ。

よろしくお願いいたします。



### 花井秀哲 (JIA 愛知)

丹羽英二建築事務所 (名古屋市中区金山2-8-4 TEL 052-332-3501 FAX 052-332-3518)

会社に入って27年がむしやらに仕事をしてきましたが、立場が変わってふと見渡すと無知な自分がいました。今一度建築を見直そうと思立った大器晩成を願う遅咲きルーキーです。

友人以外の同業者の方との関わりがあまりなかったため、非常に狭い世間で仕事をしてきた気がします。これを機にいろいろな方とお話をしたいのですが、そんなに話し上手でもないのもっぱら聞き役をこなしたいと思います。もうそこそこな歳なのでスポンジのように吸収できませんが、こんにやくのようにじっくり時間をかけて味を染み込ませていきたいと思っておりますので、今後ともどうかよろしくお願いいたします。



### 平野章博 (JIA 愛知)

日建設計 (名古屋市中区栄4-15-32 TEL 052-261-6131 FAX 052-261-6136)

「音楽とは流れ来て過ぎ去っていくもの。歌手にも聴衆にも一度限りの時間です。それを手元に置こうとしてはいけません。」ある映画に登場する若いオペラ歌手。彼女は自分の歌を録音されることを拒み、聴衆のためだけに歌います。彼女の歌を聴くには、世界各国で開かれるリサイタルに出掛けるしかありません。音楽を愛する青年がそんな彼女と出会い、その歌を盗み録りする…。

姿形が残るものも時間を経れば変化するし、その時々にはしか見せない表情があります。そんな盗み撮りされるようなものができたら幸せです。思えばそこへ至るいくつかの過程や出会う人との時間、その一つひとつも一度きり。建築の仕事を通して多くの方々と接する機会をいただいています。年々スピード感を増す日常に流されてしまいがちですが、そんな日常そのものが大切なのだとあらためて思い出させてくれました。



### 藤岡陽子 (JIA 愛知)

伊藤建築設計事務所 (名古屋市中区丸の内1-15-15桜通ビル TEL 052-222-8611 FAX 052-222-1971)

この度は入会させていただきありがとうございます。諸先輩方との交流で多くのことを学ばせていただけたらと思います。

ミシュランの星をとるような料理人ではないけれど、知る人ぞ知る裏路地で美味しい料理をつくっている人情味のある料理人、そんなイメージの仕事人になれるように今後も学んでいきたいと考えています。

# 内玄関と勝手口

この連載は、数寄屋を中心に日本建築の近代化に生涯を捧げた建築家・吉田五十八（1894～1974）の住宅作品を、近代住宅史的な観点から紹介するもので、東京芸術大学の大学美術館に所蔵されている図面類を基礎資料としている。第1回は、「表玄関」の変遷の様子を述べたので、今回は、残る出入口として「内玄関」と「勝手口」を確認したい。

## 移動する内玄関・消える勝手口

前回は、戦前・戦後の住宅作品の平面図を比較して、「内玄関」が「表玄関」付近から「勝手口」付近へと移動したことを紹介した。図1は、その変化の詳細を示したものである。吉田が設計活動を開始したのは1919年のことだが、当初は「内玄関」が「表玄関」付近にあり、「勝手口」は「台所」内にあった。ところが、設計活動開始から15年ほど経過した1935年頃になると(1)「内玄関」が「勝手口」付近へと移動する例が現れ、1940年頃からは「勝手口」のない作品も登場する。さらに、直後の1943年頃からは(2)「勝手口」に設置されていた焚口が消え、代わって下駄箱が設置されるようになる。戦後の1956年頃からは、(3)「勝手口」があまり見られなくなり、出入口は「表玄関」と「内玄関」の2つに減少する。「勝手口」から焚口が消えたことで、近接してきた「内玄関」と「勝手口」の機能があいまい

になり、「内玄関」が「勝手口」を乗っ取ってしまったのだ。

では、以上を「台所」と「浴室」部分に注目して具体的にみてみよう。図2は、吉田が手掛けた最初の作品である吉井邸（1919）の平面図である。これを見ると、八畳ほどの広さの「台所」には、「浴室」側に「土間」が描かれており、浴槽に対応する焚口と、「浴室」に直接出入りできる引戸が描かれている。薪をくべ、お湯加減をみる。そんな家事の流れが見て取れるようだ。

ところが、すでに述べたように1943年頃からは焚口のない例が現れ、「浴室」への出入口もみられなくなる。すると、「内玄関」と「勝手口」を兼用する事例（図3）や、1956年頃からは本来「勝手口」があるはずの「台所」と「浴室」の間に、「内玄関」が設置される事例（図4）がみられるようになった。これらの例を見れば、「内玄関」が「勝手口」を乗っ取った、という表現も大げさでないことが分かると思う。

## 台所空間の移り変わり

言うまでもなく、鍵を握っているのは焚口である。そして、焚口が消滅したことは給湯方法の変化、つまりボイラーが登場したことを示している。

吉田の住宅作品において、「台所」にボイラーが登場するのは比較的早く、1930年のことである。図5に示す山口邸（1940）の台所は、その姿を最もはっきりと描

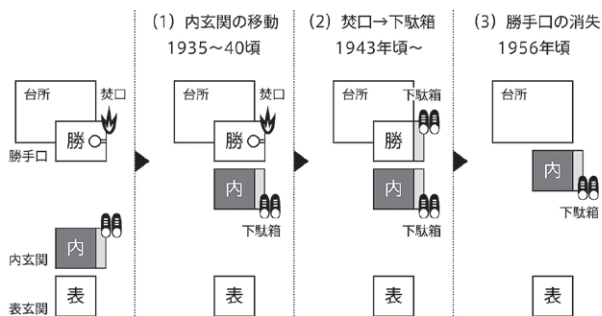


図1：出入口の配置の移り変わり

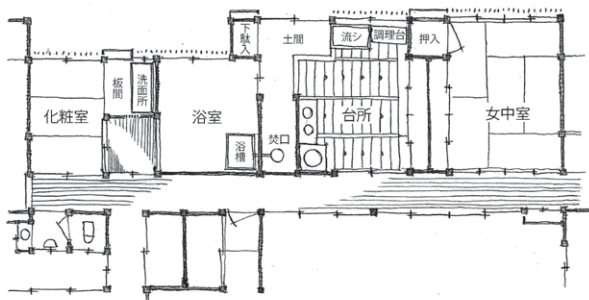


図2：吉井邸平面図（1919）

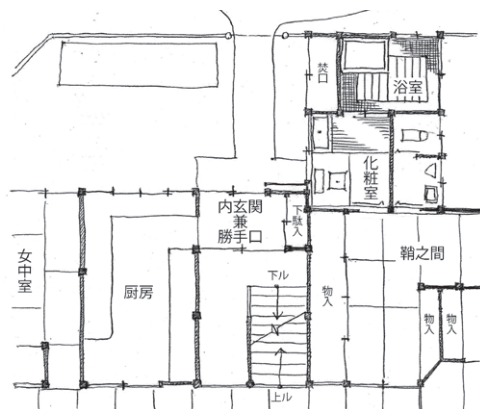


図3：鮎川邸平面図（1955）

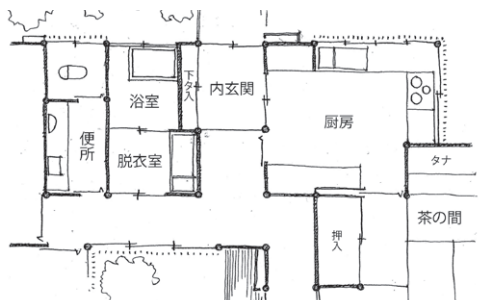


図4：福田邸平面図（1959）

いた例で、ボイラーの他に配管も確認できる。また、わずかに「浴室」にボイラーを設置した例もある（図6）。しかし、「浴室」への給湯は焚口が中心で、ボイラーを設置しても、「台所」と「浴室」への給湯は個別に行われていた。

この状況が変化するのは戦後である。1952年に竣工した高須邸は、下駄箱上に設置された大きなボイラーから、「台所」、「浴室」、「洗面所」など複数箇所に給湯が行われたことが、他の図面もあわせて分かっている（図7）。さらに1957年以降はこの傾向がよりはっきりし、「台所」ではなく機械室を別に設け、そこから住宅全体へと給湯するようになる。こうして、「台所」や「浴室」に個別に給湯する方法から、「台所」の大きなボイラーから住宅各所へ、さらに機械室から住宅全体へと、給湯方法が変化していったのだ。図8に示す真鍋邸（1955）の「台所」は、ボイラーと焚口を両方設置した例で、以上の過渡的な状況を示しており、「勝手口」が「内玄関」にのっとられる時期とほぼ一致している。この時期が、給湯方法や平面計画の変革の時期であったのだろう。その影響は思いのほか大きく、以降は「寝室」に「浴室」が付属するような例まで登場する。

## 明るくて煙の出ない台所空間

このように、ボイラーの普及と時を同じくして「勝手口」が姿を消していくわけだが、もうひとつ「台所」から姿を消した設備がある。それは、「木炭レンジ」なるもので（図5,7）、1952年の高須邸以降全くみられなくなる。焚口とあわせて、どちらも煙の出る設備

であるから、「台所」の空気環境は、このタイミングで大きな変化を遂げたことだろう。

ただし、姿を消す設備がある一方で、吉田の台所を特徴付けるように、継続して使用された設備もある。それはガラス製のフードで、1937年以降ほぼすべての作品で採用されている（図9）。ガラス製であれば、欄間窓からの光を遮らない。吉田の住宅作品の多くに「女中室」があることも関係しているだろうが、ガラスを掃除する手間より明るさが優先されていることは注目したい。この時期からは流しや調理台もステンレス製となり、吉田の台所はより衛生的で明るい印象の「台所」へと変わっていった。

数寄屋の中に明るくピカピカの「台所」。吉田の住宅作品の中に、こんな別世界があったことは意外に思われるかもしれない。しかし、吉田がことさら明るさを重視した建築家であることは、これまでもしばしば指摘されてきた通りで、伊藤ていじが吉田の特徴と述べた「レベル差のある部屋」も、その結果生まれたものである。そこで今回は、この「段差のある部屋」を中心に吉田が求めた明るさがどのようなものであったのかを検討してみたい。



おおい・たかひろ

1984年東京都生まれ・岐阜県高山市で育つ。2006年三重大学工学部建築学科卒業。2009年東京芸術大学大学院美術研究科建築学専攻修士課程修了。2015年同大学博士課程修了・博士論文は『吉田五十八の住宅作品に関する研究』博士（美術）。2015-2017年同大学教育研究助手。2017年-現在、三重大学工学部建築学専攻助教。主な著書に『昭和住宅』（共著、2014年、エクスナレッジ）、『日本の名作住宅の間取り図鑑』（2015年、エクスナレッジ）。

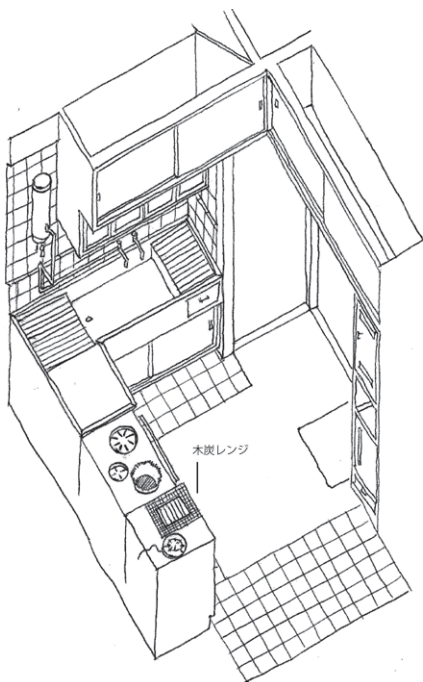


図5：山口邸台所アクトメ図（1940）

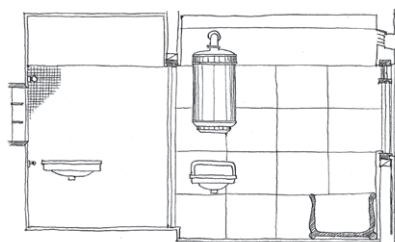


図6：大島邸浴室展開図（1940）



図7：高須邸台所展開図（1952）

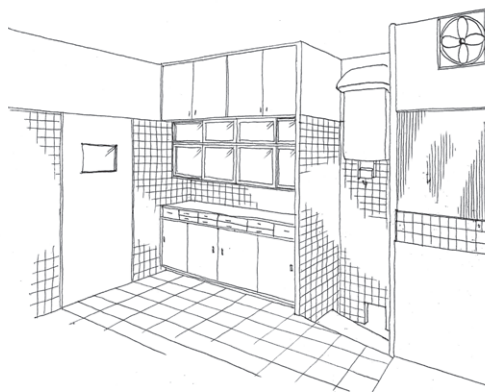


図8：真鍋邸台所透視図（1955）

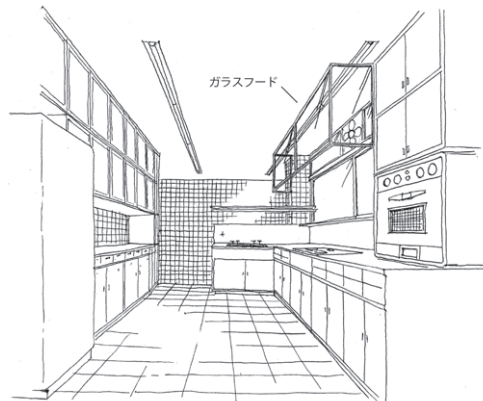


図9：岡野邸台所透視図（1962）

※ 図版はすべて筆者制作

## 2017年度リフレッシュセミナー参加者レポート

3月11日～13日までの3日間、全国設計事務所健康保険組合「熱海リフレッシュセンター」にてJIAリフレッシュセミナーが開催されました。全国支部会員7名と運営会員4名が参加しました。今回のテーマは「建築の拡張と深化」。1日目は連勇太郎氏に木造賃貸アパートの改修を手がかりとした新しいネットワークや都市環境づくりについて講演していただきました。2日目午前はグループディスカッション「地元の社会資産を見つける」をテーマに発表しました。午後はArupの菅健太郎氏に近年大きな変動をしている「環境設備」について講演いただきました。3日目午前は「設備設計者との協働」として、具体的に菅氏に設備設計を依頼する立場で各自プレゼンテーションしました。

■連氏のリフォームする手法を「レシビ化」する発想と不動産業界を対象としたシステムづくり。菅氏の「環境と建築の融合」「身体的な快適さと心理的な快適さ」についての講演。今まで得てきた知識をより「深化」し、広い分野へ「拡張」する手がかりになりました。

グループディスカッションでは、「あたりまえすぎる社会資産の残し方」と題し、沖縄のミタリーハウジングを店舗として活用したり、全面道路を遊び場など共用空間として利用することによりコミュニティが生まれたりと、価値観を高めることにより残していく方法論を発表しました。菅氏の講演では「いかに設備をなくすことはできないのか？」とあり、連氏の改修論では投資と家賃設定・回収の中で「レシビ」というシステムを導きだし、その根底には「むやみに手をかけない」という共通の認識があるように感じました。夕食後のネットワークセッションでは講師の方々を囲み、急遽2人の講師のテーマを融合した「環境とレシビ」について大いに盛り上がりました。講師、運営委員の皆さまと親密にいろいろな情報交換ができました。貴重な機会をいただきありがとうございました。



西村和哉 (JIA愛知) |  
h+de-sign/architect

■リフレッシュセミナーという響きから心のリフレッシュすることが目的の機会かと思いき、参加したのだが、その響きとは異なり、みっちり2日半建築について考える時間となった。内容としては連氏と菅氏が講師となり、各氏のレクチャーとレクチャーに対するワークショップを一つのセットとしてセミナーが進んだ。

レクチャーとワークショップがセットになっていることで各氏のレクチャーをただ聞くというだけでなく、その後のワークショップも視野に入れながら考えながら聞きかけとなった。また、各氏のレクチャーはわれわれ設計者が興味をもつ不動産と建築や環境と建築など、建築と密接につながる建築の周辺について語ってくれた。実務に追われていると、これから大切になる部分よりも直近の実務を優先させてしまうが、このような機会があると今の自分と建築の距離を捉えることに対してよい機会となる。

参加人数が7名と少数だったこともあり、日本の各地から参加した皆さんとコミュニケーションを満遍なく取ることができたことは日本における建築を学ぶ機会でもあった。

最初に考えていたリフレッシュとは異なるが、建築をリフレッシュするよい機会をいただいたことに感謝したい。

中渡瀬拓司 (JIA愛知) |  
CO2WORKS



■この度は、リフレッシュセミナー参加の貴重な機会をいただきました。先輩方からお聞きしていたのとは違い、少人数(7名)の参加者数と聞き、不安になりましたが、3日間の濃密なコミュニケーションと協同作業の時間は、むしろ、得難い経験となりました。

本部委員長代行の福島加津也氏が「自分がお話を聞きたかったから」とセレクションされたモチベーションの連勇太郎氏と、Arupの菅健太郎氏の講師お二人。セミナーの内容がともに、直接的な建築論というよりも、現在、「建築家」が直面している建築と社会の問題や、環境と設備の問題という建築周辺のテーマが設定されて、僕自身も興味深いテーマであったことから大変参考になりました。その後、参加者全員で行ったディスカッションとワークショップも非常に有意義な内容でした。少人数ではあれ、それぞれの地域でご活躍されている建築家皆が、地域的な違いはあるものの、共通に感じているテーマであることが確認できました。福島氏はじめ運営メンバーや本部スタッフの方々の秀逸なプログラムに感謝です。



黒野有一郎 (JIA愛知) |  
建築クロノ



3日目のプレゼンの様子



懇親会での集合写真

## 地方公共団体における設計者選定のありかたを考える ～岐南町庁舎の場合～

講師：小森雄一郎（岐南町役場職員）

室伏次郎（JIA正会員 スタジオ・アルテック代表）

コーディネーター：小田義彦（JIA愛知）

会場：TOTO中部支社プレゼンテーションルーム

シンポジウムは、2012年に行われた岐南町庁舎設計コンペの設計者選定を例に、設計コンペの意義と普及を考える主旨で3月3日に開催されました。参加者は43名で、JIA会員の他、愛知県、名古屋市をはじめ複数の建築行政関係者が参加しました。

### 小森雄一郎氏講演

#### 「小さな町で取り組んだ設計コンペで みえたこと」

設計コンペは、自治体にとってリスクが高いものですが、優れた設計提案を集めることができます。応募資格のハードルを上げ、リスクを避けるのではなく、提案者が参加意欲を持ち実力を発揮できる要項にするため、一定の実績条件の他にJIAの登録建築家、建築士会の統括設計専攻建築士（両者共5年以上の実績）の参加枠を設けました。その結果、全国から89のエントリー、51の提案がありました。その内訳は、実績が50%、登録建築家と専攻建築士がそれぞれ25%でした。審査員は行政側からは出さず、西沢立衛氏、松隈洋氏、室伏次郎氏の3氏にお願いしました。審査は3氏の合意形式で、最後まで提案者の匿名性を保持して行われました。最優秀に選出されたkw-hgアーキテクトの案は、町がコンペに掲げた「市民の居場所」の理念への回答がありました。竣工後も市民の居場所としてさまざまな利用がされています。市民のための良い施設という思いで進めてきました。

### 室伏次郎氏講演

#### 「設計コンペの意義と問題点」

シドニーのオペラハウスが表すとおり、設計コンペは社会資産を高めます。最近では、人を選ぶプロポーザルに比べて案を選ぶ設計コンペが非常に少なくなっています。設計コンペは設計界の活性化や次世代設計者の夢を担っています。その

ためにも「公平・公正・透明」な公開の覆面審査方式が重要です。設計コンペ実現には、お金・時間・議会説明の3つの足かせがあります。お金は事の重大さに鑑みればたいした金額でなく、時間は行政の担当者が大変苦労します。議会説明はコンペで良しとする根拠を提示し難く、奇妙な点数表に頼ることになります。これらが公共施設政策の抱える問題点です。また、コンペ審査員は、案の選定に止まらず、市民に対する説明と調整まで行うべきです。行政と建築家には、市民のために公共建築の社会的資産を高めるといった共通の目的に向かい意志力を持ち協力して取り組む姿勢が必要です。

### パネルディスカッション

#### 「地方公共団体における設計者選定」

始めにコーディネーターの小田義彦氏から、「2004年に国土交通省が、入札ではない設計者選定を推奨してきたが未だに入札方式がほとんど。公共建築の設計者は、設計料で決めるのではなく、時間を掛けて慎重に選定する必要がある」と現状に対する問題提起がありました。小森氏は完成後の庁舎について「市民にとっての居場所が生まれ、他府県・他町村からの視察も多い」と評価。庁舎が新しくなったことで「町の広報デザインも斬新され、新卒採用の応募も増えた」と言います。

室伏氏は、JIAの果たした役割と事例について「設計者選定の要項づくりのガイドと審査員選定を行った。JIAは岐南町庁舎の他にも支援した事例があり、自治体に対



シンポジウムの様子

してパンフレットをつくりPRに努めてきた」と語りました。また、今後設計コンペを広めるために小森氏は、「小さな成功体験を積み上げていくこと」と語りました。

今回、設計者選定について行政側と設計者側が参加し、それぞれの代表者の意見を聞くことは大変有意義でした。関係部署と議会への対応や調整など苦労の多い設計コンペを実現し、竣工まで成し遂げたのは小森氏の「市民のための良い施設を」の願い、それを受けた室伏氏の「市民のため、そして次世代設計者のため」という二人の意志力でした。シンポジウム開催にあたり、東海4県および市町村の建築行政関係部局に案内を行うとともに、パンフレット【良質な建築を生み出すためのコンペ・プロポーザル方式による選定業務をJIAは支援します】を紹介しました。今後もJIAは、設計コンペや登録建築家を参加条件とした設計コンペが採用されるよう行政に働きかけていく必要性があります。東海支部では、今回のシンポジウムがそのきっかけになったのではないのでしょうか。

野々川光昭（JIA愛知）| オウ環境設計事務所

## 予定超和の子どもたち

名古屋市立猪高小学校での建築教室、だがこのような結末を予想しただろうか。恥ずかしながら誰も予想できないほど見事な子どもたちの「創造力×デザイン力=構築力」が発揮された。

学校側との事前打合せのときである。子どもたちはこの程度が限界だろうと三角錐や四角錐のユニットの比較的単純な割り箸模型が用意され学校側への説明が行われた。ところが学校側からは、「完成形の必要はないがもっと飛躍した姿を示していただきたい」と注文された。学校側の本気度

は私たち以上であることがうかがえた。

事業委員会での検討では、それは一部の天才が必要としていることだから不要との論に落ち着いてしまったが、学校側の要望に応えるためにも1日目の授業では「飛躍したカタチ」をいくつか用意して持っていった。子どもたちは目の色を変えて自分たちでつくりたいとワークが始まった。割り箸での構築は悪戦苦闘が続き、時間内ではカタチにたどりつかない班も多く見受けられた。

ところがだ、2週間後の2日目を迎えて、

子どもたちがつくってきた割り箸模型の緻密さ・複雑さ・創造性とデザインの見事さにわたしたちは度肝を抜かれた。わたしたちの想像を遥かに超えた出来に、「建築家のみなさんしっかりしろよ!」と言われた思いであった。

私たちが関わらなかった2週間で子どもたちは何を学んだのか。学ぶべきは私たちでもあるのだろう。

関口啓介 (JIA 愛知) |  
人建築事務所



## つくる喜び伝える授業に手ごたえ

キャリア教育の一環として、名古屋市立猪高小学校の5年生を対象に建築教室を実施した。昨年度の「紙コップ造形教室」の結果を踏まえ、メニューを大幅にレベルアップした内容となった。今年度は間伐材を使ったワークショップ「みんなの秘密基地をつくらう」をテーマに5年生100名が9チームに分かれて、人が中に入れる程の立体造形を制作した。

全2回の授業の内第1回目では、建築家って何?という導入から建築自体への関心を引き出す、建築家によるミニレクチャーを行った。

また、今回のワークショップの目的やねらいを伝えつつ、取り組む際のヒントも提示した。その後、縮尺約1/10となる割りばし模型を使って、立体を構築する際の基本的な手がかりを掴むため、試作演習を行った。

2回目までに各チームによって完成された模型をもとに、長さ約1.8m太さ30角の角棒を組み合わせて立体を組み上げた。各チーム予想以上に創意工夫のある作品を共同作業により見事に組み上げた。中でも「みんなの花」は模型の時点でも美しいが、実物はさらに素

晴らしいものとなった。他にも今にも飛び立ちそうな宇宙船のような基地も出来上がった。

新幹線を模した作品は特に低学年の人気を集めた。昼休みの10分間、他の学年の子どもたちが作品の空間体験をした瞬間、作品に新たな価値が生まれた。そのときの5年生の得意げな顔は、建築が竣工した際に施主や利用者に喜んでもらえたときの設計者の気持ちと共通点を感じた。

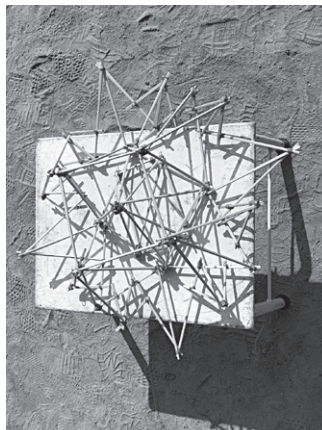
考える力、つくる楽しさ、協同する大切さ、体験する面白さを共有、また、構築する面白さを伝えることで建築や自分たちのまちに対する興味関心を持つきっかけをつくること。授業目的として、掲げた上記の内容は十分手応えがあったように思う。この先継続することと並行して、他の学校へのどのような体制で展開していくのかなど課題は尽きないが、子どもたちや実行したわれわれにとって大変有意義な経験となったことは間違いな

い。

笹野直之 (JIA 愛知) |  
笹野空間設計



特に素晴らしい「みんなの花」



上から見た様子

## 30周年の節目にデザインを一新

日本建築家協会 (JIA) は1987年5月に誕生し30年を迎えました。三重地域会も節目になる今年度発刊の広報紙『アーキテクトみえ』のデザインを一新させ、もっと多くの地域の皆さまに広報誌を通して私たちを知ってもらうことで、その活動や役割に関心をもっていただき「建築家」の必要性を身近に感じてほしいと願っています。三重地域会では年間を通じてイベントや勉強会を開催し、会員のみならず広く一般の皆さまにも参加・交流を図り、JIA三重地域会の存在を広めています。

今号の『アーキテクトみえ』28・29号では表紙デザインや掲載内容にも新しい味付けを加えて読者の拡大を目指しました。まずは表紙・表紙裏・裏表紙・裏表紙裏の4面をカラー刷りにして読者の目に

留まりやすいように変え、ページの割付を見直しました。表紙裏には新しく「後世に残したい三重の名建築」シリーズをスタートさせ、初回に『三重大学レーモンドホール』のカラー写真に紹介文を採り入れました。定番で掲載していた「建築家って何をする人?」の紹介ページは裏表紙に移動させカラー刷りにして、文章説明でなくパッと見てわかるイラスト中心のデザインに変更。帯の部分にJIA三重のホームページアドレスとQRコードを加え、インターネット検索がしやすいように工夫しています。

30周年を記念し過去10年間のJIA三重の活動の歩みに社会情勢を加えて簡単な年表にしています。建築文化講演会のポスターは抜粋して並べてみれば、毎年新進気鋭の建築家に講演依頼をして最新の

情報をお県下に届けていたことをあらためて感じます。JIA東海の機関誌『ARCHITECT』で掲載されている「東海とおきガイド」から過去に掲載されていた三重編の一部を抜粋し10年間の活動の一部として紹介しています。

割の中にある地震災害・都市災害等の後援支援活動として三重地域会では災害対策委員会を翌5月に新たに立上げ、住民の皆さまの身近な存在として一歩踏込んだ社会貢献活動をスタートさせています。その取り組みは県内の小学校での防災授業やワークショップ、熊本地震への被害認定調査員の派遣、台風21号の県内被災住宅の調査実施などを活動報告に加えることができました。

また前号のテーマ『まつり』を継続させ連続性をもたせています。奇しくもユネスコ無形文化遺産に県内の鳥出神社鯨船行事が登録される名誉となり、今号は鳥出神社の鯨船行事が表紙を飾っています。祭りの紹介はJIA三重地域会の会員がそれぞれ各地の祭を取材し執筆をしています。

加えて郷土史研究者である前田憲司氏に「考えてみよう。まつりのもつ意味」と題し、郷土の歴史に関わる祭文化を専門的見地から考察した、難しい内容を読みやすい文章でわかりやすく紹介いただけたことは『まつり』の特集に深みをつけることができました。

30周年を迎えたJIA三重地域会の節目となる『アーキテクトみえ』28号・29号の発刊は、従来から一新を図るよう努力をしたつもりですが、広報担当の不慣れ故に関係者の皆さまには幾度となくご指導ご鞭撻いただきました。

最後にりましたが、発刊にご尽力ご協力を賜りましたみなさまに深く感謝申し上げます。ありがとうございます。

阪 竹男 (JIA 三重) |  
阪竹男建築研究所・  
三重地域会広報委員長



デザインを一新した表紙回り (表紙 (左上)・表紙裏 (右上)・裏表紙 (下))

## 建築家資格制度についてのアンケート調査結果報告

登録建築家に関するアンケートを「ARCHITECT」2018年1月号に「登録建築家についてのアンケート調査」用紙を同封し、愛知地域会正会員に対しておこないました。ご協力有難うございました。回収数53（正会員数245・回答率21.6%）

### ■質問内容と回答

#### 1. 登録建築家かそうでないか。

- 登録建築家の会員…………… 46人
- 登録建築家でない会員…………… 7人

#### 2. 登録建築家の会員は更新を 登録建築家でない会員は再登録及び新規登録をするか。

- する…………… 44人
- しない…………… 7人

#### 3. 「正会員は全員登録建築家になる。」との定款改定について。

- 賛成…………… 27人
- 反対…………… 4人
- どちらとも言えない…………… 21人

#### 4. 日本建築家協会会員及び登録建築家の公表について。

##### ①名刺への記載

- 日本建築家協会会員…………… 28人
- 登録建築家…………… 22人
- 記載なし…………… 19人

##### ②会社パンフレットやホームページへの記載

- 日本建築家協会会員…………… 21人
- 登録建築家…………… 17人
- 記載なし…………… 24人

##### ③クライアントへの説明

- 日本建築家協会会員…………… 12人
- 登録建築家…………… 5人
- 説明なし…………… 36人

#### 5. 登録建築家のメリットについて。

- メリットが大きい…………… 3人
- メリットが少ない…………… 27人
- メリットがない…………… 22人

#### 6. 「登録建築家を国家資格に」との将来展望について。

- 期待している…………… 20人
- あまり期待していない…………… 23人
- 期待していない…………… 10人

#### 7. 登録建築家の新規登録、更新登録費用について。

- 妥当な金額…………… 22人
- 安くすべき…………… 19人
- 高くてもよい…………… 2人
- 会費と分けて払うのが煩わしい…………… 15人

#### 8. 更新に必要な3年間のCPD単位数が、108単位から36単位に軽減されたこと。

- 単位数は妥当…………… 40人

- 単位数を増やすべき…………… 11人
- 単位数を減らすべき…………… 0人

#### 9. CPD認定プログラム情報の取得方法について。

- JIA 機関誌及び同封の案内…………… 41人
- JIA 支部事務局からのメール案内…………… 40人
- JIA ホームページやCPD情報システム…………… 14人
- 他団体の案内…………… 13人
- その他（社内の案内）…………… 1人

#### 10. CPD認定プログラムの主催者について。

- 主にJIA主催に参加…………… 37人
- 主に他団体主催に参加…………… 3人
- JIA主催と他団体主催が半々程度…………… 12人
- その他（社内主催）…………… 1人

#### 11. 現在のJIA主催CPD認定プログラムについての評価。

- 開催数内容とも満足…………… 43人
- 開催数は満足しているが内容に不満…………… 3人
- 開催数内容とも不満…………… 6人

##### 理由

- ・建築士会や確認検査機関に比べて少ない。
- ・魅力的なプログラムが少ない。
- ・開催数はもう少し多くしてほしい。
- ・建材メーカーに頼りすぎている。
- ・内容のバランスをとる機会がない。

#### 12. JIAホームページのWEBセミナー視聴によるCPD単位取得について。

- 視聴したことがない…………… 46人
- 1回視聴した…………… 1人
- 2～4回視聴した…………… 2人
- 5回以上視聴した…………… 1人

#### □登録建築家についての意見

- 国家資格への道が難しい状況では、正会員の資格条件を厳しくして登録建築家制度を考え直すべき。同時にJIAのあり方を考える必要がある。
- 本来「正会員=登録建築家」であって、正会員の規定を厳格化すべき。グレーゾーンの発想がすべてを混乱させている。
- JIA会員は登録建築家（CPD義務付け）とし、正会員会費を値上げ（登録更新無料化）する。
- 30年かけて漸く立ち上げた登録建築家を会員資格とする定款改正を実施し、名実共に同制度の確立をはかりたい。
- 建築家協会会員と登録建築家は一本化すべき。非常にわかりにくい。
- 正会員は全員登録建築家にしてほしい。
- 登録建築家は自主規格との認識で十分。早く「正会員=登録建築家」と

すべき。CPDが面倒だという人は、準会員として残ればよい。

○登録者が増え、多くのプロポーザル参加要件として採用されるようになれば期待が高まる。

○登録建築家、一般世間は何のことかわからない。ただ名刺に書いているだけで意味を為してなく、一度も尋ねられたことはない。登録建築家はJIA会員が理解しているだけだと思われる。登録建築家の登録の部分が意味不明で通じないのでしょう。ただ立派そうに見えるだけで、もっと平易に理解されるようJIAとして考え直す必要がある。

○登録者建築家が全体の半分程度で、クライアントや市民から質問もされない。認知されていない現状では、会員規程第3条の5は廃止したほうがよい。

○登録建築家の社会的認知を国等を通じてもっと行なってほしい。

○方針をしっかり立てて取り組むべきで時間がかかると思う(30年くらい)。地道にやっていくしかない。

○建築家という職能自体が岐路にたたされていると感じる。

○登録建築家はホームページで紹介されることだけがメリット。

○登録建築家が何を目指しているのか不明。

○登録建築家、CPDについて興味ない。

#### □CPDについての意見

○CPD的日常活動は建築家として当然、各自で普通やることと理解する。現制度上、東海・愛知発では認定プログラム充足の反面、「自主研修」不認可での全国機会均等化が課題。

○県などのCPD点数は年間9点以上と18点以上で決められている。CPDでコンペやプロポーザルに参加するのであれば、3年間で36単位は少なすぎると考える。

#### ■アンケート調査結果について

##### □質問1～3【登録建築家の登録と定款改定】

登録建築家でない会員数と更新・再登録・新規登録をしない会員数が同じことから、会員規程で「正会員は登録建築家の認定を受ける」と定められた後もそれほど登録建築家が増えていない実情と合致している。

「正会員はすべて登録建築家に」という定款改定を望む会員は半数以上で、反対の会員は少数であったが、「どちらとも言えない」という意見も4割と多かった。

##### □質問4【JIAと登録建築家の公表】

JIA会員や登録建築家を社会に対してどの程度公表しているかの質問である。「名刺記載」が多いがそれでも半数程度で、次に「会社のパンフレット、ホームページ」の順で、「クライアントに説明している」は、JIA会員の説明が2割、登録建築家の説明に至っては1割と少数である。JIAや登録建築家をもっと社会に広めるためには、会全体の広報は勿論だが、会員個人の活動や広報の必要性を感じる。

##### □質問5.6【登録建築家のメリットと将来】

メリットが少ない・メリットがないと感じる会員がほとんどで、将来国家資格への期待を持つ会員が4割、あまり期待していないが4割、期待していないが

2割で、今はメリットがない・少ないが、将来を期待している会員が多い。

##### □質問7【登録建築家の費用】

費用は妥当、もっと安くすることを望むがそれぞれ4割。支払いが会費と別で煩わしいと感じる会員も3割あった。

##### □質問8【CPD単位数】

更新に必要な3年間の単位数は現在の36単位が適当との回答が8割、単位数を増やすべきとの回答が2割あった。

##### □質問9～12【CPD認定プログラム】

8割の会員がプログラム情報をJIAから取得し、7割の会員がJIA主催プログラムを中心に参加し、2割の会員がJIAと他会主催が半々程度と答えている。JIA主催のプログラムの数と内容については、8割の会員が満足しているが、内容の充実やバランスを望む意見があった。昨年からは始まったweb視聴は9割の会員が利用していない状況だが、数回利用した会員も若干いた。愛知地域会ではCPD認定プログラムが他地域会に比べると多くwebに頼らない会員が多い。自主研修廃止に伴い新たに設けられたwebによるCPDは、遠方のプログラムや、都合で参加できなかったプログラムが後から視聴できる。webを含めたプログラム数が増えることは選択肢がひろがるというメリットがあり、今後webプログラム充実に伴い視聴者も増えると思われる。

本アンケート結果は、今後の建築家資格制度のあり方に役立てていくとともに、地域会のCPD認定プログラム企画運営者は、この結果に配慮してさらなるプログラムの充実に関与していただければと思います。

野々川光昭 (JIA愛知) | 職能・資格制度委員長



## 建築家認定評議会報告

### ●2017年度 東海支部

開催日時：2018年2月17日(土)

評議員：鈴木 武(議長)、佐藤東亜男(副議長)、市之瀬敏勝、伊藤陽児、渡辺 享

会場：JIA東海支部 会議室

新規申請者3名、再登録申請者0名、更新申請者41名を合格と判断。

2018年4月1日現在登録建築家数212名(静岡23名、愛知154名、岐阜11名、三重24名)

### ●2017年度 本部

開催日時：2018年3月20日(火)

評議員：河野 進(議長)、相川順子、小林義典、田中 浩、福田晴政、和田 章、高津尚悟

会場：建築家会館3階 大会議室

新規申請者19名、再登録申請者3名、更新申請者366名を合格と認定。

2018年4月1日現在登録建築家数2,091名



藤巻志伸 (JIA愛知) | 建築家資格制度実務委員会

## 予算案、今後の財政状況が問われる



本部理事 石田 壽

第246回理事会は2018年3月12日(月)に行われた。東日本大震災から7年経過した3.11の翌日でもあり、会長の挨拶でも触れられ、重く受け止めた上で開催された。今回は、正会員資格の要件に関する準用基準(案)と予算(案)についての協議にかなりの時間が割かれた。特に予算(案)については、各支部共に運営が厳しいこともあり、本部事務局人件費の増額と各種支部助成の削減が議論になる。支部運営費の割合の見直し、会費の値上げに言及したことは大きな問題ではないか。

### 【審議事項】

#### 1.入退会承認の件(浅尾事務局次長)

- ・新規入会希望:正会員5名、準会員:専門1名、ジュニア1名、学生5名、協力会員:個人2名、法人15件、種別変更希望:専門1名、シニア2名、退会希望:正会員15名、準会員:ジュニア1名、協力会員:個人6名、法人6件、以上承認。
- ・本日承認後の正会員数は3,763名

#### 2.委員会委員長、委員会委員委嘱の件(筒井専務理事)

- ①本部建築家資格制度実務委員会委員長及び委員承認
  - ・委員長および委員として9名、東海支部から野々川氏が承認された。
- ②近未来研究特別委員会委員承認
  - ・関東6名、近畿2名、他支部各1名、計16名、東海支部から高木氏が承認された。
- ③名誉会員選考委員会委員承認
  - ・當間氏(沖縄)が承認された。
  - ・なお、正副会長会議において、委員の任期が不規則になっているが是正すべきとの意見があり、委員長は理事が務めるとの運用を含め今後協議する。

#### 3.フェロー会員推薦承認の件(上浪総務委員長)

- ・5支部より推薦のあった14名について審議し承認。
- ・当初の目標は正会員の5%であるが、現在88名(退会・死亡・資格喪失を除き)で、今後2年間で3%程度まで達したい。会長より人数確保ではなく選考をシビアにし、格を持ったフェロー会員としたいとの意見。

#### 4.正会員資格の要件に関する準用基準(案)承認の件

(上浪総務委員長・安達職能・資格制度委員長)

- ・準用基準(案)の説明と職能・資格制度委員会案の説明がある。前回理事会の提案からの変更は、プロフェッサー・アーキテクトの取り扱いをインハウスの建築家のカテゴリーから分離したこと。
- ・所属組織の定款に「総合請負業」の記載がある場合でも、その業務実態がない場合は正会員として認める。
- ・職能・資格制度委員会案について協議し、準用基準(案)を一部修正する。以上協議し、承認。

#### 5.2018年度事業計画(案)および予算(案)承認の件

(左財務委員長・筒井専務理事)

- ・会長方針に基づいた本部の事業計画(案)の説明および各支部の事業計画(案)の発表があった。引き続き予算(案)の説明で、会員数4%減で会費収入を算出、支出については公益事業活動助成および支部国際活動支援助成の削減、支部長会議の交通費カット、人件費の増額が主な内容となる。
- ・建築家資格制度は、2018年度が3年に一度の更新のため一時的に収入増となるが、2019・2020年度は大幅な減となる。
- ・人件費について、10年間見直しを実施していないので、類似他団体等の状況を比較検討した上で是正を行う。
- ・支部運営費の割合40%の見直しも今後検討する必要がある。
- ・会費収入が固定費を上回っているのは如何なものか。また赤字予算となっているが、各支部の運営も非常に厳しい中、会費の値上げを考える必要があるのでは。それについて財務委員会にて4月～5月までに各支部の現状を把握し、次年度に検討していきたい。以上協議し、承認。

#### 6.「JIA公益事業活動助成」採択の件(左財務委員長)

- ・2017年度公益事業活動助成の採択結果の説明がある。10件の申請があり、申請助成額3,420,800円に対し3件300,000円を採択する承認。

### 【報告事項】

#### 1.本部委員会体制見直しWG報告(上浪総務委員長)

- ・本部委員会体制見直しの方針について説明がある。

#### 2. ARCASIA 東京大会について(高階委員長)

- ・予算案と公式ロゴについて説明がある。また、学生デザインコンペが開催されるので、各支部で広報すること。

#### 3. JIA 建築家大会2018東京について(藤沼大会実行委員長)

- ・大会コンセプト「素なることと多様な様相」、プログラム・スケジュールの説明があり、イベント企画の募集および要請がある。

#### 4. 近未来研究特別委員会の進め方等の方針について(森顧問)

- ・オブザーバー(サポート役)を別途選任する。
- ・プレ委員会として3月下旬にキックオフを開催。
- ・開催イメージは4月から10月まで計5回、WGを設置し効果的な運営・検討を行う。

#### 5. 活動および業務執行状況報告(筒井専務理事)時間の都合で簡単な説明で終わる。

- ①業務報酬基準(告示15号)改正に関するアンケートについて
- ②2017年度公共建築設計懇談会について
- ③建築基準法改正について
- ④五会会長会議について
- ⑤後援名義承認の報告(会長専決事項)
- ⑥その他

- ・AIA大会2018inNY視察ツアー募集の案内がある。

# 東海支部役員会報告

今回、本部理事会報告にて、以前より議論になっていた「正会員資格の要件に関する準用基準」に関する承認案の報告がありました。資格基準は以前の基準に近いものであり会員資格の間口が広がるということ、それにより正会員イコール登録建築家への方向性と矛盾が生じる懸念があること、本部の意向としては会員拡大があること、などが発言されました。当然のことながら組織である以上、さまざまな役職があり、その職務を担う人は変わっていきます。そこで重要になるのが引継ぎであり、情報の伝達です。今回の件についても「過去の経緯を把握した上での現状に即した見直し」が上手くできていないがためにさまざまな議論となっている、支部役員会にて皆さんの意見を聞いてそう感じましたが、その難しさも実感しました。

まもなく東海支部も各地域会も組織変更の時期を迎えます。伝えるべきこと、聞いておくべきことを言葉で、資料で確実に伝える。この至極当たり前のことの重要性をあらためて感じました。そして、それを上手に行うためには「整理した情報を明確にプレゼンテーション」すること。建築家の本業においては大切なことであり、本来われわれが得意とする行為なのではないでしょうか。であるならば、組織運営においても本業と同じく「伝えること」をおこなうにしなければ、組織は円滑に運営されるのではないのでしょうか。



山田浩史 (JIA 岐阜) | ヒロプランニング

日時: 2018年3月23日 (金) 16:00 ~ 18:00

場所: JIA 東海支部事務局会議室

出席者: 本部理事2名、幹事8名、監査1名、オブザーバー 8名

欠席: 幹事3名、監査1名

## 1. 支部長挨拶

いよいよ後2回を残すところとなりましたが、実際には今日が終わりのようなものとなります。支部の役割というものが、本部の伝達機構なのか、地域会との調整機関なのか分からないまま2年間が過ぎてしまったように思い申し訳なく思っております。今後はまた大垣に戻って終活をしながら大垣を整えていきたいと思っております。長い間ありがとうございました。そして本日もよろしくお願ひします。

## 2. 報告事項

### (1) 本部報告 (氏名は敬称略)

①第246回本部理事会 (3/12) (石田)

②フェローシップ委員会 (3/8) (谷村)

- ・フレッシュマンセミナーを金沢で開催した件の報告と反省。
- ・今後の会員勧誘の方法と、情報の発信の仕方について。
- ・9月15日の10:45 ~ 全国地域会長会議開催の申請予定。

③ARCASIA 学生デザインコンペ (矢田)

- ・3月1日より応募が始まっており4月30日締め切り。東海支部も設計競技委員会ですべての大学に郵送にて案内送付予定。

④CPD委員会報告 (豊田)

- ・評議会と運営・広報に分かれていたが、合わせてひとつの委員会として立ち上げる方針。

### (2) 支部報告

①三重地域会・災害対策委員会「三重県玉城町災害認定二次調査」(奥野)

- ・災害対策委員長の杉山さん(静岡地域会)から本部に活動報告する。
- ・契約は玉城町とJIA 三重にて結んだ。(本部よりの代理権授与通知書にて)
- ・契約金額は135,000円+消費税(清算金額とも)、調査物件は3件
- ・予想物件数30件に対し非常に少ない件数となった。理由として、被災してから

日数がたっており、待ち切れずに家屋を修復している方が多かったと思われる。

- ・135,000円の内訳として、参加者の交通費と日当(6,500円/人程度)とした。

②東海卒業設計コンクール2018 (吉川)

- ・今までと少し方式を変更し1回で審査ができる方法とした。
- ・展示期間は5月22日~6月3日、5月26日公開審査と表彰式を行う。
- ・広告収入により予定予算は収支済。

③東海設計競技特別委員会 (3/20) (間瀬)

- ・会員名簿の添付。愛知6名、三重2名、岐阜1名、会員外3名(過去に審査員をお願いした方)合計12名
- ・静岡地域会のメンバー不在のため、推薦依頼あり。

## (3) その他

①退会届 正会員「渡邊昭彦(愛)」(見寺)

法人協会会員「東邦ガス(株)(愛)」(見寺)

## 議事

### 1. 審議事項

①事業報告 子どもの建築学校委員会2017 (鈴木賢)

- ・収入250,000円、支出239,332円、収支差額10,668円 →承認

②入会申込書 正会員「湯浅一典(愛)」(見寺)「市川雅雄(愛)」(矢田)

個人協会会員「内田 敬(愛)」(矢田) →承認

③設計競技特別委員会 委員長承認の件 (矢田)

- ・寺下委員長に代わり、新委員長に間瀬高歩氏を選任 →承認

### 2. 協議事項

①2018年度 東海支部通常総会議案書(案)について (矢田)

- ・内容を各自確認し訂正箇所等の指摘事項は4月末までにメールにて送付。

### 3. 報告

①本部会員マスターおよびHP、各地域会会員名簿の照合について (見寺)

- ・本部ホームページと各地域会ホームページをチェックして、不整合の確認を行った。
- ・不整合がある理由として、本部の登録は事務所の所在地となる県の地域会となっているため、例えば、愛知に事務所があっても岐阜地域会に所属しているといった場合があると、そこで人数の不整合が生じている。
- ・もう一点は、所属事務所によって振り分けがされているため、退職すると、県での登録がなくなり、支部への所属登録のみになる。よって退職者は県での登録人数から漏れてしまう。

- ・現在、愛知・三重・岐阜は確認済みで不整合はなくなっている。静岡についてはまだ確認が取れていないが、以降は地域会ごとで定期的に確認する。

②「特別委員会」の扱いについて (矢田)

- ・特別委員会となっているが継続して続いている委員会が多数あるが、今後、委員会名から「特別」を削除するか、委員会活動が終わった時点で一度解散をして再度立ち上げるのが良いか。
- ・事業がある委員会は今までどおり特別委員会とし、決算をひと区切りとして、解散、立ち上を行う。
- ・委員長が変わった場合は支部役員会にて審議、承認を行うこととする。

### 4. その他

①2018年度名誉会員推薦について (矢田)

- ・各地域会にて推薦者が有れば、次回支部役員会 (4月20日) までに資料提出。

②会費未納による資格喪失候補について (矢田)

- ・愛知、岐阜、静岡に数名資格喪失候補になっている方がいる。
- ・早急に各地域会にてフォローする。

## 友田家住宅



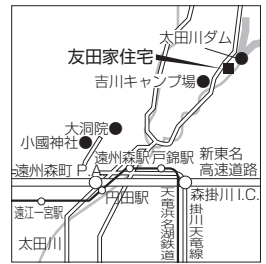
主屋外観



300年余を経た重厚な建築部材



大戸口 (写真中央) とオオカミ除け (写真左)



### ■発掘者コメント

友田家は、太田川の源流に近い東亀久保の草分けの家で、祖先は出雲の刀鍛冶だと言われている。その昔、朝廷に仕えようとしたがかなわず、鎌倉に下る道すがら、この山深い飯田の荘鍛冶島村亀久保平に土着し、その後東亀久保に移り住み現当主は47代目であるという。

現存の母屋は、元禄期(18世紀初頃)に現在地に隣接する元屋敷(前畑)から移築され、前身母屋の部材(側柱・小屋梁の一部・側梁)のいくつかを確認することができる。300年余を経た重厚な建築部材には見ごたえのある赤松や栗などの雑木が用いられている。

建物は梁間五間(約9.1m)、桁行八間半(15.5

m)の風格ある寄棟づくり・茅葺きで、台所が土間に一間突出し、「ひろま」と「なかのま」が喰い違う「方喰い違い三間取り型」を基本としている。1983(昭和58)年、半解体修理により建築当初の姿を復元し、以来、1995(平成7)年に屋根葺き替え修理、2011～2012(平成23～24)年に屋根葺き替えおよび耐震補強工事が行われている。

明治期の友田家付近の絵図では母屋の東に長屋門があったが、現在は茶部屋に改造されている(住居棟東に現存)。母屋の入り口が大戸口といい、外に大戸、内にくぐり戸と障子戸がはめられ、また、ひろま南面東半分には「オオカミ除け」の頑丈な格子が掛けられて防御を意識した造りとなっている。

土間は、表から裏口へ通り抜けることができ、右手東側に竈と流しが据えられ、土間からはひろまどだいどころへ上がる事ができる。だいどころの中央には囲炉裏があり、かつては日常生活の煮炊きや、暖をとりながらの食事と団らの場となっていたことが伺われる。

国指定重要文化財(昭和48年6月2日指定)

所在地: 静岡県周智郡森町亀久保336

アクセス: 天竜浜名湖鉄道「遠州森町」駅下車→町営バス(吉川線) 落合→友田家、車利用の場合は新東名森掛川IC→亀久保→友田家

参考資料: 森町教育委員会「友田家住宅」パンフレット、国指定文化財データベース

富田正行 (JIA 愛知) | エム・プロダクツ



## まち並みとしての保存を考える 大野町



大野祭り (撮影: 寺野伸一)



大野町界隈の屋根と空き地



### ■発掘者コメント

常滑市大野町界隈。世界最古の海水浴場と看板が印象的な大野町は、鎌倉時代初期に鴨長明が「生魚御あへもきよし酒もよし 大野のゆあみ日数かさねむ」と詠い潮湯治をしたと言われています。大野は伊勢と知多半島を結ぶ港町で、室町時代には三河の守護一色氏が大野を支配し伊勢湾を見下ろせる高台に大野城をつくり海運を手に入れました。その後、戦国時代に入り茶人で有名な織田有楽斎が治め、大草城を築造しました。江戸時代になり、知多半島の醸造業や鍛冶で海運業を中心に大野港は繁栄しました。大野は徳川家とも関係があり、織田、豊臣、徳川と

歴史的なエピソードがあるまちです。現在も大野には多くの寺や神社があり、繁栄の姿がまち並みに残ります。知多半島では半田や常滑の中心地が人気ですが、大野町は知多半島の他の地域に比べても鎌倉時代の早から繁栄してきたまちです。

そんな、繁栄の証の一つとして祭りがあります。このあたりでは半田の祭りが有名ですがこの大野にも祭りがあり、春には3台の山車と川に浮かぶ巻藁船が共演します。いまだに、山車などの文化を維持するには人と財がなくてはできません。大野も高齢化と人口減少で空き家が目立ちます。また、訪れるたびに建物は解体され、採石敷の駐

車場へと変わって行きます。こうなるとシャッターの閉まる商店街と同じで、産業の転換や人口減少による衰退は名古屋より顕著でまち並みの崩壊が始まっています。

今すぐに解決はできませんが、空き家の活用はもちろん、空き地についても考えなくてはすごいスピードでまちがなくなってしまうと感じています。

もう時期、夏がきます。潮湯治として最古の海水浴へでかけ、大野町を探検してみてください。

浅井裕雄 (JIA 愛知) | 裕建築計画



## 環境・エコ・災害対策に向けた各社の取り組みについて

3月9日(金) 18:30 ~ 21:00まで中日パレスにおいて、2017年度第2回目のCPD研修会を開催しました。本研修会は、法人協力会から日頃お世話になっているJIA会員の皆さまへの認知活動の一環として、各企業から「環境・エコ・災害対策に向けた各社の取り組み」を紹介させていただきました。

<講演企業> (株)アルフレックスジャパン・TOTO(株) <参加者数> 会員23名、法人協力会員20名

(株)アルフレックスジャパン

個別テーマ【モダンファニチャーの変遷とソファの最新構造】

講師: 田中 光一様

日本におけるライフスタイルの変遷をソファというアイテムから解説をいただきました。生活スタイルの変化に伴い、ソファは応接間からリビングへと移り変わってきました。年代ごとのソファのレイアウトの変化や、最新のマテリアルトrendなどの紹介からモダンファニチャーの

歴史をわかりやすく説明いただきました。

現代は「良いもの」「愛着を持つもの」をメンテナンスしながら長く使う時代になっております。そこで、現代ソファの構造について、モールドウレタン構造をメインに説明してもらいました。モールドウレタンの特性やモールド構造のメリット(耐久性やメンテナンス性)などについて、現物を手に取っていただきながら、ソファの断面構造について説明いただきました。

TOTO(株)

個別テーマ【パブリックユニバーサルデザイントイレセミナー】

講師: 山下 麻紀様

1960年に障害者・高齢者配慮の研究をスタートされ、現在ではそれらを含めたすべての方に使いやすくする「ユニバーサルデザイン」の最近の傾向について説明いただきました。特に、建築基準を踏まえた配置計画例を多く取り入れて説明いただいたことで非常にわかりやすい説明となっております。

車いすユーザー・乳幼児連れの方・オストメイト使用者など、多機能トイレを使用される方々のトイレでの利用動作検証について映像を用いて紹介いただきました。昨年改定されたバリアフリー法・建築設計標準(ガイドライン)に基づいた、①トイレ機能の分散配置促進②小規模施設・既存施設のバリアフリー改修—などについて、具体的なプラン例の提示していただきました。

さらに、外国人・LGBTへの配慮も含めたトイレの考え方の提案もしていただきました。特に、オストメイトのトイレでの利用実態は不明点が多く、参加の会員から活発な質問があり関心度の高い内容でした。

法人協力会として、今後もCPD研修を開催しますので、会員・法人協力会員の皆さま、ご支援・ご協力をいただきますようお願いいたします。



酒井良和 (JIA 法人協力会員) | (株) LIXIL 中部支社営業部

### 地域会だより

#### <東海支部>

5/11 支部通常総会  
6/26or27 本部通常総会

#### <静岡>

3/24 まち歩きウォッチング  
3/28 3月静岡地域会定例役員会  
4/13 4月静岡地域会定例役員会  
4/23 静岡地域会通常総会  
4/23 講演会 山辺豊彦氏

「地域材を活用した中大規模木造建築物の設計」

#### <愛知>

3/2 住宅研究会 連続環境セミナー 2018  
「図解で解決空き家のパターン別スッキリ解決法」講師:中山聡  
3/3 地方公共団体におけるコンペのあり方を考えるシンポジウム  
3/9 JIA 愛知役員会&法人協力会 CPD 研修  
3/10 住宅研究会 連続環境セミナー 2018  
「環境ノイズエレメントを読む」講師:宮本佳明

3/14 JIA 愛知法人協力会役員会

3/30 JIA 愛知役員会

4/13 JIA 愛知役員会

4/27 東利恵講演会

5/26 ~ 5/28 住宅研究会 ベトナム旅行

#### <岐阜>

3/2 JIA の窓

住宅見学会「一つ屋根の家」(後藤様邸)

3/3 第17回ぎふ建築・生活・芸術系学生・生徒優秀作品展 合同講評会  
主催:日本建築学会東海支部岐阜支所

4/5 JIA 岐阜役員会

4/17 岐阜地域会通常総会

#### <三重>

2/2 臨時役員会

2/9 第7回例会、会員研修会5(建材研修会を予定)

## 伝統と最先端の技術が融合する「美濃焼タイル」

法人協力会通信③

<岐阜>

大野一彦 | 協同組合ケーエスジー



協同組合ケーエスジーは、1953（昭和28）年、食器を中心とした美濃焼の卸売業者団体として、当組合の前身である笠原陶磁器商業協同組合を設立し茶碗の産地として発展してきましたが、1970（昭和45）年頃に茶碗の需要減少の一方、タイルの需要が増加してきたため、これに合わ



多治見市モザイクタイルミュージアム（設計・監修：藤森照信）

せるように多くの組合員が茶碗の間屋からタイルの間屋へと取扱品を変えてきました。

美濃焼タイル市場拡大のため、官公庁の建造物への使用を考え、これを推進するため「官公需適格組合」の認可を受け、現在は、タイル商社の組合となり多くのタイルメーカーを賛助会員として迎え、タイルの中小企業団体として活動しています。

タイルは、天然の粘土や石などを原料とする焼き物で、耐久性、耐熱性、耐水性、耐摩耗性、耐薬品性に優れているという特性があり、古くより建築素材として使われてきました。そうしたタイルならではの機能性に、独特の深い味わいと美意識を

加味したのが美濃焼タイルです。さらにセルクリーニング機能のあるCTタイルや都市温暖化に対応するクールアイランドタイルなど新しい機能を持つ商品も開発しています。

タイルは、まちや都市、空間を彩りながら、時代や国を象徴し、歴史を刻みこむ数々の建造物を生み出してきました。伝統と最先端の技術が融合する「美濃」から、ケーエスジーが中心となりその新しい可能性を発信しています。

JIAの皆さまとは、弊社製品をご理解いただけるよう交流に努めてまいりますので、今後ともよろしくお願ひします。

●協同組合ケーエスジー  
岐阜県多治見市笠原町2827-1  
TEL 0572-43-3218 FAX 0572-43-4734

## 編集後記

●新入会員のコメント、若手会員向けのリフレッシュセミナー・設計コンペの設計者選定に関するシンポジウム・小学生対象の建築教室の報告、建築家資格制度のアンケート結果と建築家認定評議会の報告、さらに会費値上げにも言及された本部理事会報告…と、今号はいつも増して、JIAの今後に関わる本質的な記事で構成されました。取り分け、愛知地域会における建築家資格制度のアンケートにおいて、回答者の約85%が登録建築家であるものの、約95%の会員が意義を感じていないという実情が示されたことは重大だと思います。ぜひ他地域会でも実施いただきたいところですが、同じく愛知地域会によるコンペの設計者選定に関するシンポジウムは、まさにその意義を定着させようというひとつの試みです。登録建築家にまつわる定款や規定の整備など制度の確立を進めることも大切ですが、そこに終始せず、今後は制度がもたらす

効果の行く末を示す運動や事業を、より活発に行っていかなければならないと思います。

（中澤賢一）

●今月の連載記事で「台所空間の移り変わり」が取り上げられている。住宅の建て替えの依頼で先日お邪魔した建物は築100年近いと言われていた。現在までに何度か手を入れ、増築を繰り返していた。広い玄関を中心に左が台所、右が畳の部屋につながっている。流石に台所はリフォームされてトータルキッチンが据わっていたが、完全に居住とは切り離された隔離された場所にある間取りだった。当時は住宅のプランに女性の意見は反映されていなかった事がうかがえる、現代では考えられないことである。住宅においては女性の意見なくしてプランは進まない。キッチンが中心になる住宅だって珍しくない。一番奥さまがこだわる設備機器と言って良いと思う。私も打合せは奥様とすることがほとんどである。収納の棚の高さ1cm2cmをこだわって考えている。もちろんキッチンの性能、使う素材が飛躍的に良くなったことも大いに関係あるが家庭を守る奥さん

が家族のことを考えて、一番多くの時間過ごす場所だからだ。男性はと言うと「奥さんが良ければ、何でも良い!」と笑っている。私は思う、奥様の夢を叶えれば家族は幸せになれる!と。

（西郷悦代）

## ARCHITECT

第 356 号

発行日 2018.5.1（毎月1回発行）

定 価 380 円（税込み）

発行責任者 車戸慎夫

編集責任者 中澤賢一

編 集 東海支部会報委員会

愛知地域会ブリテン委員会

建築ジャーナル内

ARCHITECT 編集部

名古屋市東区泉 1-1-31 吉泉ビル 703

TEL (052) 971-7479 FAX 951-3130

発行所 (公社)日本建築家協会東海支部

名古屋市中区栄 4-3-26 昭和ビル

TEL (052) 263-4636 FAX 251-8495

E-Mail : shibu@jia-tokai.org

http : //www.jia-tokai.org/